経営概要書

法人名：　十和田ホテル　株式会社　（株　4）

1　法人の概要

代表者職氏名	代表取締役　猿田　強	所管部課名	観光文化スポーツ部観光戦略課
所在地	小坂町十和田湖字鉛山無番地	設立年月日	平成9年12月5日
電話番号	0176-75-1122	ホームページ	http://.towada-hotel.com

主な出資（出捐）者	出資（出捐）者名	出資（出捐）額(千円)	出資（出捐）比率（%）
	秋田県	100,000	40.0%
	藤田観光(株)	37,500	15.0%
	DOWAホールディングス(株)	22,500	9.0%
	その他３市町、１３団体	90,000	36.0%
	合計	250,000	100.0%

設立目的	歴史的・文化的価値の高い十和田ホテルを後世に伝えるとともに、同ホテルの効率的な運営を図り、もって十和田地域の観光の振興に寄与することを目的に県等の出資により平成9年12月に設置。
事業概要	十和田ホテルの諸施設の管理運営業務
事業に関連する法令、県計画	

2　H26年度事業実績（前年度評価を踏まえた取組内容を含む。）

平成26年度は、アフターDC・国民文化祭が実施され秋田県全体での観光客は前年度比で増加になったが十和田湖周辺の観光客は依然として厳しい状況であった。このような状況下、昨年度に引き続き冬季間の営業休止並びにランチ・入浴休憩の通年営業休止等、事業採算性を重視した経営を継続した。宿泊では、募集団体の集客、エージェントの新規開拓、ＤＭ・インターネット販売等による個人客の集客等に注力した。また、売店においては十和田湖周辺施設では取扱いのない新たな商品を取り入れ増収を図った。
宿泊客は13,477名（前期比+1,120名増）、宿泊売上高194百万円（前期比+10百万円）となった。休憩では、通年営業を休止し団体客のみを受け入れたことで売上高は1百円（前期比-5百万円）となった。売店では、17百万円（前期比+3百万円）を計上した。結果、ホテル全体の当期売上高は、216百万円（前期比+8百万円）となった。営業費用では、売上高増に伴う変動費（材料費・エージェント送客手数料）は増加したが、その他の費用については節減に努めた。結果、営業費用全体では、208百万円（前期比+4百万円）を計上した。営業利益は、8百万円（前期比+4百万円）、経常利益では8百万円（前期比+4百万円）となった。

＜事業目標＞

項　目	区分	H24年度	H25年度	H26年度	H27年度
売上高（千円）	目標	215,000	221,650	200,000	207,575
	実績	225,396	208,807	216,480	―
個人客宿泊人数（人）	目標	11,140	11,410	12,000	12,875
	実績	10,244	9,411	13,477	―
顧客満足度指数	目標	89	90	90	90
	実績	89	89	87	―

3　組織

①役員数(H27.7.1現在)　（単位:人）

区　分	取締役 H26	取締役 H27	監査役 H26	監査役 H27
常勤	1	1		
内、県退職者				
内、県職員				
非常勤	8	7	1	1
内、県退職者				
内、県職員	1	1		
計	9	8	1	1
内、県関係者	1	1		

役員報酬
支給対象者（H26年度）　2　人
平均年齢　55　歳
平均報酬年額（H26年度）　5,700　千円

②職員数(H27.4.1現在)　（単位:人）

区　分	H26	H27
正職員	5	8
内、県退職者		
出向職員		
内、県職員		
臨時・嘱託		
内、県退職者		
計	5	8
内、県関係者		

正職員
平均年齢　37　歳
平均勤続年数　7　年
平均年収（H26年度）　2,531　千円

③取締役会回数

H25	4	H26	4

4　財務

①損益計算書　（単位:千円）

区　分	平成25年度	平成26年度
売上高	208,807	216,480
売上原価	177,373	182,305
売上総利益	31,434	34,175
販売費及び一般管理費	26,890	25,980
人件費(売上原価含む)	64,123	65,114
営業利益（損失）	4,544	8,195
営業外収益	17	111
営業外費用	20	
経常利益（損失）	4,541	8,306
特別利益		
特別損失	269	
法人税、住民税・事業税	572	874
当期純利益（損失）	3,700	7,432

②貸借対照表　（単位:千円）

区　分	平成25年度	平成26年度
流動資産	91,657	104,326
固定資産	4,815	4,005
資産計	96,472	108,331
流動負債	6,493	10,920
短期借入金		
固定負債		
長期借入金		
負債計	6,493	10,920
資本金	250,000	250,000
利益剰余金等	△ 160,021	△ 152,589
純資産計	89,979	97,411
負債・純資産計	96,472	108,331

（単位：千円）

退職給与引当状況	要支給額	引当額	引当率(%)

＜主な経営指標＞

項　目	算　式	平成25年度	平成26年度	H25-26増減
経常収支比率	経常収益÷経常費用×100	102.2%	104.0%	1.8%
流動比率	流動資産÷流動負債×100	1411.6%	955.4%	△ 456.3%
自己資本比率	純資産計÷負債・純資産計×100	93.3%	89.9%	△ 3.3%
有利子負債比率	有利子負債÷純資産計×100			

5　県の財政的関与の状況　（単位:千円）

区　分		平成25年度	平成26年度	支出目的・対象事業概要等
年間支出	補助金			
	委託費			
	指定管理料			
年度末残高	貸付金			
	損失補償			
	その他の財政支出（基金等）			

経営評価表
法人名：　十和田ホテル　株式会社　（株　4）

Ⅰ　自己評価

1 公共的役割		2 組織体制		3 事業実施		4 財務状況	
B	県内外の観光客・宿泊客に十和田湖の魅力を伝え、十和田湖活性化に寄与している。国登録有形文化財を有し、その維持管理に努めている。	A	取締役会を法定の回数開催している。常勤の役員はいる。充て職の役員は取締役会に毎回出席している。常勤職員はプロパー職員である。	A	事業目標が3つ。2つが100%以上で、1つが96.6%である。	B	単年度損益が黒字であるが、累積債務がある。

Ⅱ　所管課評価

1 公共的役割		2 組織体制		3 事業実施		4 財務状況	
B	県関与の縮小に位置付けられている法人であるが、十和田湖周辺地区の活性化に寄与し、また国登録有形文化財である建物の適正な維持管理を行うなど一定の公共的役割を担っている。	A	取締役会は４回開催されており法定回数を満たしている。常勤の役員がおり体制は整っている。充て職の役員は毎回取締役会に出席している。常勤の職員がおり体制は整っている。	A	売上高及び個人客宿泊人数は前年度実績を上回り目標値もクリアしている。顧客満足度がわずかに目標値に届かなかったが、Ａ評価である。	B	単年度損益が黒字であるが、累積債務があることからＢ評価である。

Ⅲ　外部専門家のコメント

・増収増益であり、収支は安定している。
・利益剰余金は△152,589千円と繰越欠損であり、欠損の累積は年々減りつつあるものの期間損益の水準に比して過大で解消には長期間を要することから、財務基盤は安定しているとは言えない。

Ⅳ　委員会評価

1 公共的役割		2 組織体制		3 事業実施		4 財務状況	
B	三セクの行動計画では、民間委託が可能な事業を主たる事業とし非三セク化を目指す法人に位置付けられているが、公の施設の管理者として、県事業に一定の役割を持つことから、引き続きサービスの維持・向上を図っていくことが求められる。	A	適切であると認められる。	A	良好であると認められる。十和田湖周辺地区全体の賑わいづくりと集客に向け、地域の自治体、団体、企業との更なる連携強化が望まれる。	B	累積債務は年々減りつつあり、引き続き、ローコストオペレーション等採算性を重視した経営の継続が求められる。

○H27年度重点取組法人に　選定　する　しない